

サモアでの海外研修に参加するにあたって、日本の子ども達とサモアの子ども達との絵の交流をしたいと考えた。夏休み前、子ども達に夏休みにサモアへ行くことになったことを伝え、地図でサモアの場所を教え、インターネットで見つけたサモアの写真を何枚か見せた。そして、サモアの子ども達に渡す絵を描いてもらった。題材は、キャラクターでも何でもいいとした。海外の子ども達に絵を渡すというのは子ども達にとっても初めての体験であり、一生懸命描いてくれた。

その絵を持って、8月8日サモアへと旅立った。バイメア小学校で、日本の子ども達の絵と写真を渡し、お返しにサモアの子ども達にも絵を描いてもらった。

サモアの子ども達の絵と、サモアで日本の子ども達の絵を渡したときの写真は、夏休みの作品展の会場に展示した。子ども達は、自分の描いた絵がどんな子の手に渡ったのか興味を持って写真を見ていた。また、サモアの子ども達の絵については、自分たちと違った題材や絵のタッチに感心して見ている子が多かった。

事前に、絵での交流をしたことによって、子ども達はサモアを身近に感じ、またサモアという国についてとても関心を持ったようだった。

本校の5年生の今年度の総合学習のテーマは「食べることから世界を覗く」で、2学期特に時間をかけて、いろいろな国の食べ物や日本との違いを調べていくことになっている。その取り組みのきっかけになればと、9月中旬からサモアに関する授業に取り組んだ。

1回目のテーマは「食べ物」とした。総合学習のテーマが「食べることから世界を覗く」であるということと、おみやげとして買ってきたタロイモ、バナナ、パンの実チップスを食べさせようと思ったからである。

まず、主食とは何かを考えさせ、サモアの主食が日本とは全く違うことを話した。特に、バナナが主食と言うことを聞き、多くの子どもが驚いていた。レストランで出てきた食事の写真を見て、バナナやタロイモが日本のご飯の代わりであるということがよくわかったようだ。また、ヤシの実のジュースに子ども達はとても興味を持ち、飲んでみたいという声も多く聞かれた。

授業の最後は、3種類のチップスの試食タイム。話を聞くだけでなく、実際に口にできたことで、さらに子ども達の心に残ったようだ。

また、この授業の最後で次時への予告として見せた、スカートをはいている男の子の写真が子ども達にはとても驚きだったようだ。

それぞれの国には、それぞれの違いがあり、それを認めていくことが大切だし、そんな違いを見つけていくことをきっかけにして世界に興味を持ってほしいということをこの時間の締めくくりとした。

〈子ども達の感想から〉

- ・ バナナチップスは日本で言うと昆布の味がしました。パンの実チップスは、味のないチップスに塩をかけたような味でした。
- ・ 私が一番驚いたのが、バナナでした。バナナはふつう果物の一種なのだと思います。
- ・ 驚いたのは、主食がタロイモとヤムイモとパンの実、そして何とバナナということです。日本では主食が米だけど、サモアでは米の代わりにバナナを食べていると聞いて私はびっくりしました。
- ・ 一番うまかったのはタロイモで、味はポテトチップ、次にバナナチップでこの味はのりせんべいのような味だった。パンの実チップはピーナツの味だった。
- ・ サモアの食べ物・飲み物の中で一番食べたい、飲みたいと思ったのはヤシの実のジュースです。

2時間目は、テーマを「学校」とした。まず、前時に見せたスカートをはいた男の子の写真から話を始めた。世界には、国によって色々違いがあり、でもどれが間違っているとかいうことはなく、それぞれを尊重していく事が大切であることを改めて伝えた。

その後は、サモアの学校に関するクイズと、サモアの小学校のビデオを見せた。学校のことを知る中で、子ども達はサモアの学校のいいところ、日本の学校のいいところを感じながら話を聞いていたようだ。

〈子ども達の感想から〉

- ・ いいなと思ったのは、学校に売店があるところです。でも、休み時間に少しお菓子を食べてただけでおなかはへらないのかなと思いました。
- ・ サモアの学校は男子もスカートで、いつもはだしだって聞いて私はびっくりしました。
- ・ クラスに机が少ししかなくて、他の人はごぎの上に座って勉強するなんてびっくりです。
- ・ 授業は、3年生から英語があつていいなと思いました。
- ・ サモアの小学校の時間割を見てびっくりしました。日本の小学校は授業時間が45分なのに、サモアは1時間以上続いてたし、休憩時間も少ないし、給食もなかったからです。

3時間目は、テーマを「文化」とした。入れ墨屋さんの写真を見せて、サモアではほとんどの大人が入れ墨を入れていることから話を初め、次にファイアーダンスのビデオを見せた。その国に昔から伝わっているものやことを文化ということを説明し、日本の文化は何か考えさせた。そして、それぞれの国の文化を尊重することで、互いに認め合う事ができるということを話した。

さらに、サモアの家には壁がないこと、サモアのバスは、満員になったら膝の上に座ること、サモアの週末はビンゴ大会で盛り上がることなどをクイズ形式で取り上げた。

また、青年海外協力隊やシニアボランティアとして、サモアで活躍している日本人が多くいることも伝えた。

〈子ども達の感想から〉

- ・ 日本の文化とサモアの文化は全然違う。もっともっと、いろんな国の文化を調べたいと思った。
- ・ ファイアーダンスで、火の棒を回すのがスゴイと思いました。練習してあんなに上手にできるのかなと思いました。
- ・ サモアでは、入れ墨を入れたらもう大人ということかなと思いました。
- ・ サモアの家は、壁もドアも窓もないから、泥棒とか来たらどうしようと思ったけど、サモアは泥棒とかおらへん、平和な国なんやなあと思いました。
- ・ 私が不思議に思ったのは、1年間はだしで歩いたりして暑くないの？と思いました。また、バスが満員になると人の上に人が座るなんて「下の人、重いやん」と思いました。上に乗った人も気をつかわないのかな？けど、何か日本と違っておもしろかったです。

3回の授業を通して、一貫して「みんなちがって、みんないい」ということを子ども達に訴えた。自分と違うところを知り認め合うことが、多くの人や多くの国と付き合っていく時に一番大切であることを、今後いろいろな国のことを調べていく中で感じ取ってほしいと思っている。

サモアの子ども達の絵と、サモアの子ども達に灰塚小の子ども達の描いた絵を渡したときの写真の展示



～パワーポイントでのプレゼンの中で、特に子ども達が興味を持った写真～



バナナが、一枝10タラ(約400円)、そして、バナナは主食で焼いて食べる。



ヤシの実ジュース、飲んでみたい。ヤシの実に穴を開ける男の子、スカートをはいている。



サモアの小学校、運動場が芝生で、とても広そうだ。



サモアの小学校には売店がある。



ござの上に座って勉強している。そして、これは何？



サモアでは、入れ墨を入れるのが当たり前



壁のない家、そして満員のバスー膝の上に人が！